

意味から英語を組み立ててみよう！ 「意味順」のすすめ

国際高等教育院／大学院人間・環境学研究科 准教授
京都大学 名誉教授（現 名古屋外国語大学 教授）
愛媛大学 知的財産センター 准教授

金丸 敏幸
田地野 彰
中川 勝吾

「意味順」って何？



玉手箱

だれが

する(です)

だれ・なに

どこ

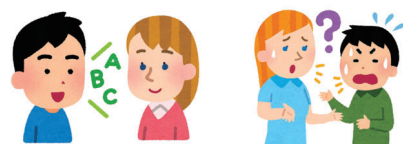
いつ

意味順 (Version 3.0)

「意味順」とは、英語の語順を意味のまとまりでならべたものです。 → 5文型 compatible！

- それぞれの枠は「意味順ボックス」と呼びます。 → 何が入るかは日本語で考えて OK！
- 使わない「意味順ボックス」は、飛ばして埋めていきます。 → 必要なものだけで OK！
- 「だれ・なに」の「・(中点)」は、「両方、もしくはどちらか一方」を表します。 → and/or
- 「玉手箱」は、疑問文を作ったり接続詞を入れたりするときに使います。 → 便利な box！

「意味順」の開発背景



—英語は「固定語順」言語—

日本語は文の中の意味（役割）を「助詞」で表します。

例) 私「が」本「を」買いました。
それに対して、英語は文の中の「順番(位置)」で意味（役割）が決まります。

そのため、英語で正しく意味を伝えるためには、語順に沿って単語を並べなければなりません。

—「文法用語」を使わない—

英語は語順で意味（役割）が決まるので、どの順番が何の意味になるかを知っておかなければなりません。これをまとめたものが「5文型」です。

しかし、5文型で使う「補語」や「目的語」って、直観的に分かりにくいですね？

文法用語を使わずに英語を理解できないものなのでしょうか？

—間違えてよい「間違い」—

言葉のコミュニケーションでは、間違えたら理解に困る間違いと、間違えても理解できる間違いがあります。

英語の場合、間違えたら意味が通じなくなるのが「語順」です。英語を使うときは、まったく間違わないようにするのではなく、間違えてはいけない間違いをしないことが大切です。

「意味順」と5文型



5文型	だれが	する(です)	だれ・なに		どこ	いつ
SV	He	lives			in Kyoto.	
SVC	She	became	a doctor			last year.
SVO	They	play		soccer	in the park.	
SVOO	He	teaches	us	English		on Monday.
SVOC	She	calls	him	Dick.		

◆ 「意味順」は語順の要素をまとめたもの……なので、5文型にあてはまるものは全て表すことができます。 ◆

「意味順」を使うメリット



英語を使う場合……

- 日本語の意味から英語を組み立てられるので、英語を話したり聞いたりする際の「認知負荷」を減らすことができます（頭のリソースを節約できます）。 → **考える余裕ができる！**
- 「意味順」の枠に当てはめながら理解することで、次に何が出てくるか予想しながら聞くことができます（例：「私は」「会った」なら、次は「だれに」）。 → **ツッコミながら先読み！**

英語を教える場合……

- 文法単元を「意味順ボックス」に結びつけることで、英文法の見取り図を示せます。たとえば、「助動詞」は「する(です)」の項目になります。 → **文法を二次元で捉える「意味順マップ」**
- 英語を読んだり聞いたりするときに、前から順番に理解するように指導できます。「関係詞」や「名詞節」などは「意味順」を二段にして指導します。 → **「入れ子構造」で視覚的に理解！**

「意味順」の今後



—「使える」英語の指導を目指して—

2020年度から、小学校での「外国語活動」（3、4年生）と「外国語科」（5、6年生）が始まります。

中学・高等学校では、これまで以上に「話すこと」「書くこと」といった英語で表現することに重点が置かれることになります。

「意味順」を取り入れた指導法で、**小学校から高等学校・社会人まで**、一貫して英語を教えることのできるカリキュラム作りを目指しています。

— ICTによる新しい学習方法の開発に向けて—

「意味順」を使うと視覚的に英語を理解することができます。この特徴を活かして、手を動かしながら英語を組み立てられる「アプリ」を開発しています。

直感と視覚イメージで文を組み立てる練習を繰り返すことで、単なる暗記ではなく、**英語の仕組みに基づいた英語学習**ができるようになります。

現在は決まった文だけですが、**様々な文を作ったり、自動で採点したり**できるようにする予定です。